

永耕会だより

第9号

- 永耕園（障害者支援施設）
- 光海学園（福祉型障害児入所施設）
- デイセンター永耕（障害者日中活動支援）
- ういず（相談支援センター）
- 永耕会ホーム（共同生活援助）
第一ホーム（おちやの実・なかまたち）
第二ホーム 青空 あすなろ 上千代

ウクライナの戦争が
一日も早く終わりますように



小田原市地域生活

支援拠点事業所に登録

地域で暮らす障がい者の支援拠点となる事を目指して

地域で暮らす障がい者の重度化、高齢化、親亡き後を見据え、それを支える仕組みとして令和4年4月より各市町に「地域生活支援拠点等の整備」が義務付けられました。

永耕会は相談支援センターういず、障害者支援施設永耕園を軸に、足柄上下地区の検討会に参加させて頂いてきましたが、令和4年4月1日付で小田原市地域生活支援拠点事業所として登録いたしました。

相談支援センターういずは主に「相談・専門的人材の確保及び養成・地域の体制づくり」の機能を担い、永耕園は「緊急時の受け入れ・対応」の機能を担います。

永耕会はこれまで、県西地区で最も大きな永耕園短期入所定員10名の機能を活用しながら、「同居するご家族が倒れた」などの際に緊急時の受け入れを行い、必要なサービスに繋げていく支援を行ってききましたが、今後も小田原市、足柄上下地区の地域で暮らす障がい者を支える「地域の拠点事業所」としての役割を果たして行きたいと思っています。

今年の永耕祭について

秋の永耕祭について、開催の可能性を検討してきましたが、7月以降、新型コロナウイルスの感染が急拡大しており、大変残念ですが今年も「永耕祭」は中止いたします。

昨年、利用者さんの「永耕祭がないのは寂しい」との声が多数あがり、法人事業所内の行事として「ミニ永耕祭」を開催しましたが、本年もそのような形態といたします。

地域の方が沢山参加して頂ける永耕祭の開催が待ち遠しいです。



福利協会 30 周年表彰－働きやすい職場を目指して

感謝



毎年、神奈川県福利協会より勤続 30 周年表彰の記念品が届きますが、今年は 3 名の方が対象となりました。例年の様に 6 月 17 日理事長より授与されました。厨房調理員さん 1 名、支援員 1 名、事務職員 1 名です。

授与された 3 名の方も 30 年間の道のりは平坦なものではありませんでしたが、法人として様々なサポートを行い、今では各部署の中核を担って頂いています。

永耕会は職員が長く働くことができる職場環境が、利用者さんにとって一番大切な支援と思っています。

新しく 6 名の職員が入職しました

WELCOME

今年永耕会は 4 月 1 日、6 名の学校新卒入職者を迎える事が出来ました。大学卒者 2 名、専門学校卒者 4 名です。これからの永耕会を支える人材として育てて行く事を期待しています。一緒に頑張りましょう！



管理者の交代のお知らせ

デイセンター永耕所長と永耕会ホーム管理者を兼務していた関正明が 5 月末で退職いたしました。後任として、永耕園施設長の河辺邦夫が兼務しております。

引き続き、よろしくお願いします。

評議員会・理事会報告

6月23日定時評議員会が開かれ、令和3年度計算書類及び財産目録等が承認されました。あわせて、関正明理事の辞任に伴い、5月24日理事会での決議に基づき、相談支援センターういず所長の近文子が理事として選任されました。任期は、令和5年定時評議員会終結の時までです。

社会福祉法人 永耕会 役員・評議員 (令和4年6月23日現在)					
理 事 会	永耕会理事長	長 谷 川 隆 三	評 議 員 会	飯 田 和 夫	監 事
		長 谷 川 博 一		竹 下 啓 子	
		関 田 智 彦		木 村 絹 代	
	永耕会常務理事	河 辺 邦 夫		柏 木 政 弘	
		佐 藤 大 輔		小 宮 邦 雄	
		近 文 子		晝 場 浩 司	
				中 嶋 義 次	
				石 井 明	評 議 員 選 任 委 員 会
				青 木 健 一	
	外部委員	吉 田 拓			
	外部委員	植 田 芳 司			
	監事	石 井 明			
	永耕会職員	福 原 健 一 郎			

令和4年度 事業計画 法人本部 (抜粋)

昭和29年光海学園が設立され68年目、昭和38年永耕園設立を経て昭和58年社会福祉法人永耕会が発足し40年目を迎えます。児童・成人、入所居宅・通所、相談事業等5つの事業を総合的に展開する法人として、積善会グループ事業も含めて県西地域の中で障がい児者への支援拠点としての永耕会への役割と期待は、ますます大きなものになっています。

令和4年4月より開始される地域生活支援拠点事業において、永耕会は、県西地区における中心的な役割を担って行きたいと思います。

1. 永耕会の理念

人権を尊重する福祉サービスの提供に努めます 質の良い福祉サービスの提供に努めます 心温かい福祉サービスの提供に努めます

2. 永耕会の基本方針

貧しさや戦災など、さまざまな理由で大切な家族と住むことができなくなった障がいを持つ児童を保護する家として、昭和29年に光海学園は開設されました。これが私たち永耕会の原点です。

- 永耕会倫理綱領を職員の人権、行動規範とします ■常に研鑽に勤め、誠意を持って障がい児者福祉に取り組みます
- 地域における責務を認識し、福祉活動、公益的活動に努めます
- 意思決定支援を進め、障がい児者の望む暮らしの実現、社会参加に努めます
- 人材の育成に努めます ■社会福祉法人としての健全な福祉経営に努めます

3. 本年度の重点目標

(1) 地域生活支援拠点事業の中核事業所として役割を果たします

- ・令和4年4月より各市町に設置が義務化される地域生活支援拠点事業において、永耕園(緊急時短期入所)、ういず(相談・コーディネート)、デイセンター永耕・永耕会ホーム(体験利用)を軸に参加します。

(2) 感染症、自然災害に対応し、事業継続可能な体制づくりに努めます。

- ◇新型コロナウイルス感染症事業継続計画(BCP)の更新と徹底に努めます。
 - ・感染症対策委員会を設置、開催し、研修、訓練を継続します。
- ◇大規模自然災害事業継続計画(BCP)を更新と徹底に努めます。
 - ・下曽我、上府中地区の自治会、社会福祉協議会と情報共有し、自治会防災訓練に参加します。
 - ・法人として、神奈川県災害派遣チーム(DWAT)に職員派遣協定を締結しました。登録職員の各種研修への参加に努めます。

(3) 人権を尊重する支援を推進し、身体拘束ゼロを目指します

- ・「永耕会人権委員会設置等に関する規程」、各事業所運営規程に基づき、人権委員会の開催(年3回)、永耕会人権検証委員会(3月)を開催します。
- ・虐待防止、人権尊重に関する研修会を法人、各事業所で開催します。
- ・身体拘束ゼロに向け、身体拘束適正化委員会を設置し、拘束の見直し、虐待のない支援を進めます。
- ・引き続き、意思決定支援を進めます。

(4) 労働環境の整備

- ・国の働き方改革の動向を注視し、非常勤職員の待遇改善を進めるとともに、ハラスメント(パワハラ・セクハラ・マタハラ)の無い、全ての人が働きやすい職場環境の実現に努めます。

(5) 管理者の責任を明確にした事業運営、収支バランスの確保

- ・各事業所の収支バランスの確保と安定した事業運営に努めます。

(6) 次世代人材の採用と育成

- ・福祉系新卒学生の採用確保を進めると共に、新採用職員の教育、育成を進めます。
- ・「適材適所」の職員配置を進め、次世代の法人運営を担う人材の育成を進めます。

※定款、貸借対照表、資金収支計算書、役員報酬等の支給基準額は永耕会ホームページより閲覧できます。

永耕会ホームページ (<http://eikou-kai.or.jp/>) より [法人のご案内](#) → [永耕会 情報公開](#) → [決算報告書](#) → [WAMNET 社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム](#) からご覧いただけます。

第 75 回小田原市市展に今年も入選

令和 4 年 5 月 26 日(木)～29 日(日)にかけて開催された第 75 回小田原市市展に永耕園の機織りグループの作品を出展し、永耕園の小林淳さんが「教育委員長賞」、永耕会ホームの古沢清美さんが「奨励賞」をそれぞれ受賞されました。

昨年までコロナ対応の為に中止されていた表彰式も今年は、5 月 29 日三の丸ホールで開催され、出席しました。



さつまいもの苗を植えました

デイセンター永耕では、こゆるぎ幼稚園さんとの交流を重ねております。

今年もデイセンター永耕の畑を利用して園児さんと一緒にさつまいもを育てています。

6月にはさつまいもの苗植え会を行いました。

元気いっぱいにはさつまいもの苗を植える園児さんに、優しく指導するデイセンター永耕の利用者さん。子供たちと

利用者さんとの温かな交流が続いています。デイセンター永耕では引き続き地域の皆さんと共に歩む施設を目指してまいります。



❖❖❖❖ 編集後記 ❖❖❖❖

新型コロナウイルス感染は、いまだ終息の兆しはなく、第7波の感染の大きな波が来ています。永耕会は永耕園・永耕会ホームの居住系利用者と法人職員の3回目ワクチンを4月末までに終了していますが、今回のba.5株は免疫回避の特性が強いとの情報で再び緊張を強いられる日々が続いています。

一方、「感染が不安だ」との科学的根拠を持たない自粛や行動制限は利用者さんの基本的な人権を奪う事にもつながる為、永耕会の一大イベントである永耕祭は中止と致しましたが、日々の感染対策を徹底させながら豊かで変わらない日々の日常を継続して行きたいと思っています。(河辺)

メール：info@eikou-kai.or.jp 電話：0465-42-2268